



ふしぎなかばんを携えて

かばん30周年記念イベント プログラム

2013年5月12日

- 開会の挨拶 2:30
- 来賓のスピーチ
- トークショー Session 30 「短歌の相談室」 司会・睦月都 3:00ごろ
佐藤文香・穂村弘・佐藤弓生
—— 10分休憩 —— 3:50ごろ
- 歌合 短歌たたかう 司会・雨宮真由 4:00ごろ
笹 公人・石川美南・東 直子・柳谷あゆみ・山田 航・伊波真人
- パフォーマンスだばんぱかばん (前編) 担当・なかや宏高 5:10ごろ
伊波真人・柴田暉&法橋ひらく&雨宮真由 (チーム アラジン)・榎田純子 (かばん北海道)
—— 60分休憩 —— おやつ おしゃべり お買い物 5:45ごろ
- パフォーマンスだばんぱかばん (後編) 6:45ごろ
陣崎草子・雪舟えま・伴 風花・千葉 聡・井辻朱美
- かばん賞 (笑) 表彰 7:45ごろ
- 閉会の辞 7:55ごろ
総合司会 飯島章友 渋谷綾乃

展示コーナーにも
注目!

ショップ・フリマも
ご覧ください。



◆前田透門下の若手で結成され、当初はもと「詩歌」の会員が集まった「かばん」だが、いつのまにか「詩歌」に関わりのない人が大半となった。

◆資金の都合その他で冊子の体裁が変わったり、月刊で忙しいからネット時代にすばやく対応したりと、変化はいろいろあがられる。しかし、「先生はいない」という自立の気質と、「何でも入るかばん」という受容の気風は、創刊当時から変わらない。

◆何でも入るだけでなく出入りも自由である。頼るべき先生や拠るべきスローガンのない「かばん」は、子供だけで操る筏みたいでもある。旗のない筏、乗り降り自由な筏である。

◆たくさんの子供がこの筏に乗り、同じぐらいたくさんの子供が降りていった。これからもいろんな子供が乗り込んで、筏をゆすぶったり珍しい漕ぎ方をしたりすることだろう。

